

園長先生の月曜礼拝の法話

『御恩は、まずは報じるもの～報恩講のお話』

毎年、1月16日は報恩講の礼拝をします。報恩講とは、私を必ず助けてくださるみほとけさまにお礼を言う日です。みほとけさまは、私が悲しい時、苦しい時に、必ず助ける、大丈夫だよと私を支えてくれています。

☆いろいろな御恩

さて、私たちはいろんな人に助けられて生きています。また、私も誰かを助けることもあるでしょう。

たとえば、道に迷って困っているときに、正しい道を教えてもらうこともあるでしょう。何かをしようとして、やり方がわからなくて困っているときに、方法を教えてもらうとか、一緒にしてもらおうとかしてもらったこともあるでしょう。

のどが渴いてフラフラになってしまったときに、飲み物や薬を分けてもらうこともあるかもしれませんね。

そのように親切にしてもらって、私はどのようにしたらよいのでしょうか。

☆御恩をうけたらどうする

道に迷ったときに助けてくれた人に、恩返しとばかりほかの道順を教えるあげますか。その人がそのとき迷ってなかったら、それでは恩返しにはなりませんね。

やり方がわからないときに教えてくれた人に、お礼としてほかのことのやり方を教えませんか。その人が困っていなかったら、お礼にはならないでしょう。

御恩を受けたとき、まずはありがとうとお礼を言い、恩を受けているということを知ることが大切なのでしょう。

報恩講の「報」とは、知らされる、という意味があります。御恩を受けたらまずはそのことに感謝して、御恩を受けているということを知っておくことが大切なのでしょう。そうすればわがままにふるまっている自分を、これじゃいけない、と考え直すことにもつながるでしょう。そして、いつかお返しできる日が来たときに、ご恩返しができるでしょう。

報恩講とは私を人間として育てていただくみほとけさまの御恩に、お礼を言う日です。